

伊那市民憲章（素案）に対する意見検討シート

市民憲章の構成について

- 前文 唱和文 後文の3節から構成されているが、前文と本文の二本立てでいいと思う。情緒的表現や美辞麗句が多く、実際に憲章が市民の指針や地域づくりの力になるかどうか。それには伊那市らしい地域性のある内容・表現にしたいと思うがどうか。伊那市らしい表現は最初の2行と「まほろば」か。最後の市民憲章は削除したい。
- 市民憲章制定後の活用と目的は下記の様であって欲しい。
 - ・市職員は毎朝就業前に全員で庁舎に響き渡る声で唱和して伊那市民の先頭に立つ認識と体内リズムを作る。
 - ・伊那市民は様々な集会で唱和して一体感をつくりだす。
上記の目的の為には文章は短文でなければならない
- 前文は
「平和で希望にみちた伊那市をみんなで創造するために市民憲章を定めます。」で充分。
 - ・唱和文左の文は削除。唱和文を唱和して各々が自分の解釈をすべきである。
左の文で誘導、固定化すべきではない。
 - ・美しい自然を愛し、住みよい環境を守ります。→住みよい環境を生み出します。
 - ・歴史と文化を大切にし、心豊かな人を育みます。
 - ・人のつながりを大切にし、思いやりの輪を広げます。
 - ・心もからだも健やかに、明るい家庭と職場をきずきます。
 - ・かけがえのない命と、平和への願いを伝えます。
 - ・後文
美辞麗句で作成され、市民憲章の活用と目的が理解されていないと思います。市民憲章作成を以って目的達成の感がある。
- 唱和する価値、唱和するという行動様式を好みません。単に箇所書きにしてほしいです。ここは全体に具体性に欠けた空文句が多いですね。検証できる内容にすることを希望します。
- 文語調の3行で“独自性も高まる”とは……。 (奇妙で違和感あり) 「非核・平和宣言のまち」「ふたつのアルプスに抱かれた」豊かな自然環境のまちに、誇りをもてるまちの独自性が全体に盛られることこそ大切。

その他市民憲章全般に関する事項について

- 当面は「伊那市の歌」などをもっと大切にするような雰囲気づくりが大切ではないか
- 長谷村役場の前にあった「長谷村憲章」などをどうするのか。各地域協議会に地域に沿った「憲章づくり」を提案したらどうか
- 唱和文というのは憲章になじむかどうか。それをどう生かそうとしているか。

伊那市民憲章（素案）に対する意見検討シート

前文に関する事項について

- 「豊かな自然～」について、「豊か」という表現に違和感がある。「美しい」「雄大」などの方が適するのではないか。
- 私たちは「いきがい」「働きがい」のあるまちを～とあるが2二つだけだと何か足りない違和感がある。この様な表現をするなら3項目あった方がバランスが良いと思う。
- 私たちは「いきがい」「働きがい」のあるまちをつくり、平和で希望にみちた伊那市を創造するため
⇒私達は、憲法が生活にいきる福祉先進の平和なまち伊那市を実現するため、
- 「平和で希望にみちた伊那市～」の前に、「自然と共生し」を加える。

前文 自然環境に関する事項について

●三峰川の後へ小黒川を入れる。

・説明

南アルプスからは三峰川（支流も含めて）が、中央アルプスからは幾筋もの川が天竜川に流入して居るが、代表して小黒川とした。

○自然

両アルプスと清流天竜川を中心に東西の均衡がとれる。

○歴史

犬房丸（工藤祐時）は小黒川より井筋を開削して引水を図り新しい村造りに努めたという言い伝えもある。1220年代の頃。

○文化

1913年（102年前）市内内の萱地籍の小黒川に小黒発電所が建設されて（郡下最初）伊那町界隈に文化の灯がともった。

注 小黒川を代表とした理由

小沢川（源流 北沢 ） 南箕輪村

藤沢川（源流 オッ越 ） 宮田村

小黒川（源流 将棋の頭） 伊那市

犬田切川（源流 市内 ） 小さい？

●・・・天竜川と三峰川の・・・ ⇒ ・・・三峰川と天竜川の・・・

・水は上から下に流れる、自然現象を正しくとらえて、文面に生かすべきである。

・上・下は正しく表現するのがよいと思う。

「山高く水遠し我が故郷」 伊沢多喜男

「仰之愈高 望之愈遠」（これを上げば愈高く、これを望めばいよいよ遠し）と伊沢修二は、書きものに残している。山があって川が出来る。自然を正しく表現したい。

伊那市民憲章（素案）に対する意見検討シート

唱和文 福祉・地域に関する事項について

- 「思いやりの輪を広げます。」⇒「思いやりとおもてなしの輪を広げます。」と加える。
井月の様によそ者を温かく受け入れる精神（おいでなんしょ）がある点にも触れて頂きたい。

伊那市民憲章（素案）に対する意見検討シート

唱和文 平和・安全に関する事項について

- 「平和への願いを伝える」ではなく、「平和をまもります。」でなくてはならないと考えます。
- 災害が頻発している状況下で、「安心・安全」への志向があっているのではないかと